

平成 31 年 2 月 1 日

各 位

株式会社リボミック

(コード番号：4591 東証マザーズ)

RBM-007 の米国治験の経過報告（講演）

当社は加齢黄斑変性症に対する新薬候補として、RBM-007（抗 FGF2 アプタマー）の Phase 1/2a 臨床試験（ニックネーム SUSHI Study）を、米国において昨年 10 月から開始し、現在順調に進んでおります。RBM-007 の新薬としての特徴、臨床試験の途中成績、今後の見通し等を、今月 26-28 日に開催される「AsiaTIDES」において講演いたします。

AsiaTIDES は、核酸やペプチド医薬品の開発・製品化に役立つ研究成果や技術を紹介し、提携のチャンスを提供するアジア地域で唯一の国際的なイベントです(<http://www.giievent.jp/kne724007/>)。本イベントを通じて、世界トップレベルの研究者や製薬会社幹部等を含む 300 人以上へ当社の持つ技術価値を発信し、ライセンスアウト等の事業開発を加速してまいります。

発表日時：平成 31 年 2 月 28 日

発表者：代表取締役社長 中村義一

題 名：Anti-FGF2 aptamer RBM-007 in phase 1/2a trials for wet AMD

【加齢黄斑変性症と RBM-0007 について】

加齢黄斑変性症（AMD）は、目の網膜の中心にある黄斑に障害を生じる疾患で、悪化すると失明に至る。50 歳以上の約 1%が発症し、欧米では失明原因の第 1 位。2020 年に全世界で患者数は約 2 億人になると予想されている。既存薬として、血管新生阻害薬（抗 VEGF 薬）が広く使われているが、その効果は一過的であり、失明の原因となる網膜の瘢痕形成（線維化）を抑制することができない。

FGF2（線維芽細胞増殖因子 2）には多様な生理機能があり、血管新生と線維化の促進作用をもつ。RBM-007 は FGF2 を阻害するアプタマーであり、動物試験において網膜の血管新生と瘢痕形成を抑制することが証明されており、AMD の根本治療に役立つ新薬となる可能性がある。

RBM-007 の詳細については、当社ウェブサイトもあわせてご参照ください。

(URL: <https://www.ribomic.com/pipeline/rbm007.php>)

以上

【本件に関するお問い合わせ先：経営企画部 03-3440-3745】